

「保健医療科学」
第74巻 第2号 予告

特集：「熱中症」の現状把握と対策の実践 ―異常気象の“New Normal”への適応―

気候変動適応法改正の概要（仮題）	永田翔
自治体による熱中症対策の取り組み（仮題）	大和広明
熱中症診療ガイドライン2024の解説（仮題）	横堀將司
国内の熱中症救急搬送者数と気候の地域的特徴（仮題）	下ノ蘭慧
WBGT簡易推定図の開発と利用方法（仮題）	齊藤宏之
熱中症対策に係る技術的対策の活用事例（仮題）	榎原浩平
学校における熱中症対策（仮題）	吉田慶太
海外の熱中症対策の公衆衛生政策事例（仮題）	下ノ蘭慧，竹田飛鳥，清野薫子，島崎大，冨尾淳

編 集 後 記

「保健医療科学」では、第68巻より、第1号において、日本の公衆衛生分野の最新のトピックと国立保健医療科学院のそれらへの貢献を国際発信することを目的とした全文英文による特集を発行しており、本号はその7回目である。本号の特徴として、障害児・者・高齢者のリハビリテーション、障害者の就労支援、医療的ケア児の支援、高齢者・障害者等の栄養ケア・マネジメント、女性の健康支援など、これまで十分に論じられていなかったテーマに焦点を当てて、政策の発展過程を詳細に解明していること、国立保健医療科学院の研究者と他の大学・研究機関等の研究者による共著論文が多いこと、が挙げられる。

これらは、国立保健医療科学院の研究における着眼と分析の「きめ細やか」と、本院の研究者のネットワークの「幅広」さを示している。公衆衛生の課題は今後ますます多様化していくことが予想されることから、本院を基盤とする「幅広」い分野の研究者コミュニティの機能を強化して、多様な健康課題に「きめ細やか」に対応して、「誰一人取り残さない」公衆衛生政策を推進するための調査研究に注力していく必要がある。

（公衆衛生政策研究部 武村真治）